

オリンピック・パラリンピック教育における「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」の実施について

障害者理解を深める主な取組（令和元年度）

- ① パラリンピック競技応援校の指定 ⇒ 競技団体連携型 20 校に加え、観戦促進型 30 校を指定
- ② 教員を対象としたパラスポーツ指導者講習会の開催 ⇒ 8月に14回実施（420名受講予定）
- ③ 「被災地等と連携したパラスポーツ体験交流」の実施 ⇒ ボッチャを通じた中学生の交流を5月、9月に実施
- ④ 「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」の開催

東京 2020 大会後の
レガシー
○パラスポーツの普及
○共生・共助社会の形成

「令和元年度東京都公立学校パラスポーツ交流大会」実施概要

実施目的

- 都立特別支援学校と小・中・高等学校との交流を一層推進
- パラスポーツの普及・啓発

フロアバレーボール大会

- 日時：令和元年7月20日（土）午前10時～午後2時45分（予定）
会場：東京都立文京盲学校
- 視覚障害特別支援学校の生徒と中・高等学校の生徒が混成チームを編成して総当たり戦で実施（9校4チームが参加予定）

【フロアバレーボールとは】

全盲や弱視の視覚障害者と健常者が一緒にプレーできるように考案された競技。

床上に30cmの隙間ができるようにネットを張り、ネットと床との間にボールを通過させて相手コートに打ち返す。

チームは前衛3名、後衛3名の計6名で構成。前衛選手はアイマスク又はアイシェードを着用し、床面を転がるボールの音や、後衛選手の指示を聞きながらプレーする。



ボッチャ大会

- 日時：令和元年8月3日（土）午前9時45分～午後4時（予定）
会場：東京都立府中けやきの森学園
- 肢体不自由特別支援学校及び小・中・高等学校の児童・生徒が参加（29校32チームが参加予定）
- 2リーグ形式で展開
 - ①特別支援学校と小・中・高等学校の混成チームによる交流戦
 - ②特別支援学校チームによる学校代表戦

都立高校生による支援

- 大会運営や参加チームのサポートを行うボランティアとして参加
- 工業高校6校（予定）の生徒が、大会で使用する横断幕やボッチャ競技用補助具（ランプ）を製作し、大会運営を支援



工業高校製作ランプ